

# 説明補足資料

## 第3 近代的な酪農経営及び肉用牛経営の基本的指標



平成27年3月  
農林水産省生産局畜産部



酪農経営		【人(ヒト)】	【牛(ウシ)】	【飼料(エサ)】	【所得】 (主たる従事者1人当たり)
北海道	放牧によるゆとりの創出と6次産業化に取り組む家族経営	家族2人(1,900hr他) 雇用3人+ヘルパー	経産牛:66頭+アイス 乳量:8,100kg/頭	飼料作物:55ha(実面積、以下同) うち放牧:34ha	酪農部門:770万円 6次産業化部門:340万円
	ロボット・新技術による省力化・収益増加を図る大規模家族経営	家族2人(1,900hr) 雇用1人+TMRセンター	経産牛:100頭 乳量:8,500kg/頭	飼料作物:55ha	630万円
	分業化・機械化による省力化・効率化を図る大規模法人経営	法人8人(1,900hr) 雇用7人	経産牛:500頭 乳量:9,000kg/頭	飼料作物:218ha	710万円
都府県	外部化によりつなぎ飼いで規模拡大する家族経営	家族2人(1,800hr) 雇用1人+コントラクター他	経産牛:80頭 乳量:8,600kg/頭	飼料作物:8ha 購入飼料:稲WCS	680万円
	機械化・外部化と耕畜連携に取り組む大規模家族経営	家族2人(1,800hr) 雇用1人+TMRセンター	経産牛:100頭 乳量:9,000kg/頭	飼料作物:8ha 購入飼料:稲WCS、飼料用米	670万円
	耕畜連携と6次産業化に取り組む大規模法人経営	法人4人(2,000hr他) 雇用6人+TMRセンター	経産牛:200頭+チーズ 乳量:9,300kg/頭	飼料作物:18ha 購入飼料:稲WCS	酪農部門:630万円 6次産業化部門:390万円
肉用牛経営					
繁殖	荒廃農地等への放牧で地域の里山を守る家族経営	家族2人(1,800hr) 雇用1人	繁殖雌牛:30頭	飼料作物:11ha うち放牧:9ha	400万円
	放牧・外部化により省力化・規模拡大を図る家族経営	家族2人(1,800hr他)	繁殖雌牛:80頭	飼料作物:30ha うち放牧:25ha	540万円
	ICT・ロボット等により効率化を図る大規模法人経営	法人3人(1,800hr) 雇用2人+コントラクター	繁殖雌牛:200頭	飼料作物:16ha 購入飼料:稲WCS	850万円
肥育・一貫	飼料用米の活用等に取り組む大規模肥育家族経営	家族2人(1,800hr) 雇用1人+コントラクター	肥育牛:200頭	飼料作物:7ha 購入飼料:稲WCS、飼料用米	520万円
	エコフィードの活用等に取り組む繁殖・肥育一貫の大規模法人経営	法人4人(1,800hr) 雇用8人	繁殖雌牛:300頭 肥育牛:500頭 他	飼料作物:44ha 購入飼料:エコフィード、稲WCS 他	1,240万円
	出荷月齢の早期化等に取り組む交雑種・乳用種法人経営	法人4人(1,800hr) 雇用3人+コントラクター	肥育牛:1,000頭 他 (うち交雑種:600頭)	飼料作物:76ha	810万円

# 酪農経営(主に北海道)

土地条件の制約が小さい地域

## 【課題】 飼料費、労働負担の増加

### 放牧によるゆとりの創出と6次産業化に取り組む 家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 集約放牧の活用
- 搾乳ユニット自動搬送装置の導入
- アイスクリーム等の製造・直販

経産牛1頭当たりの飼料費:約2割低減  
飼養管理時間:約3割低減

【形態】家族経営2人、雇用3人+酪農ヘルパー  
【規模】経産牛66頭、飼料作物55ha、アイスクリーム7.0t  
【収益】 (酪農部門) (6次化部門)  
粗収入 4,940万円 1,900万円  
経営費 4,170万円 1,560万円  
所得 770万円 340万円  
(酪農部門の主たる従事者1人当たりの所得、労働時間)  
770万円、1,900hr



集約放牧



アイスクリーム

### ロボット・新技術による省力化・収益増加を図る 大規模家族経営

#### 【新たな取組と効果】

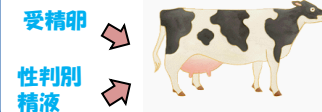
- 搾乳ロボットの導入
- TMRセンターの活用
- 性別別技術を活用した乳用後継牛の効率的な確保
- 受精卵移植技術を活用した和子牛の生産

経産牛1頭当たりの飼料費:約2割低減  
飼養管理時間:約5割低減

【形態】家族経営2人、雇用1人+TMRセンター  
【規模】経産牛100頭、飼料作物55ha  
【経営】  
粗収入 8,040万円  
経営費 6,770万円  
所得 1,270万円  
(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
630万円、1,900hr



搾乳ロボット



受精卵

性別別精液

### 分業化・機械化による省力化・効率化を図る大規模 法人経営

#### 【新たな取組と効果】

- 飼料生産・調製部門、搾乳部門、哺育部門等への分業化
- ロータリーパーラーの導入
- 青刈りとうもろこし等高栄養飼料作物の利用

経産牛1頭当たりの飼料費:約1割低減  
飼養管理時間:約3割低減

【形態】法人経営8人、雇用7人  
【規模】経産牛500頭、飼料作物218ha  
【経営】  
粗収入 4億1,930万円  
経営費 3億6,260万円  
所得 5,670万円  
(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
710万円、1,900hr



ロータリーパーラー



青刈りとうもろこし(イアコーン)

# 酪農経営(主に都府県)

土地条件の制約が大きい地域

## 【課題】 飼料費、労働負担の増加

### 外部化によりつなぎ飼いで規模拡大する家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 搾乳ユニット自動搬送装置の導入
- コントラクターの活用
- 稲WCSの利用等による耕畜連携

経産牛1頭当たりの飼料費:約1割低減  
飼養管理時間:約4割低減

【形態】家族経営2人、雇用1人

+酪農ヘルパー、コントラクター

【規模】経産牛80頭、飼料作物8ha

【経営】

粗収入 7,350万円

経営費 5,980万円

所得 1,360万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)

680万円、1,800hr



搾乳ユニット自動搬送装置



コントラクター

### 機械化・外部化と耕畜連携に取り組む大規模家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 搾乳ロボットの導入
- TMRセンターの活用
- 飼料用米の利用等による耕畜連携

経産牛1頭当たりの飼料費:約2割低減  
飼養管理時間:約5割低減

【形態】家族経営2人、雇用1人+TMRセンター

【規模】経産牛100頭、飼料作物8ha

【経営】

粗収入 9,460万円

経営費 8,120万円

所得 1,350万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)

670万円、1,800hr



TMRセンター



稲WCS、飼料用米

### 耕畜連携と6次産業化に取り組む大規模法人経営

#### 【新たな取組と効果】

- パラレルパーラーの導入
- 稲WCSの利用等による耕畜連携
- チーズの製造・直販

経産牛1頭当たりの飼料費:約1割低減  
飼養管理時間:約2割低減

【形態】法人経営4人、雇用6人+TMRセンター

【規模】経産牛200頭、飼料作物18ha、チーズ6.8t

【収益】 (酪農部門) (6次化部門)

粗収入 1億9,560万円 2,950万円

経営費 1億7,680万円 2,560万円

所得 1,880万円 390万円

(酪農部門の主たる従事者1人当たりの所得、労働時間)

630万円、2,000hr



パラレルパーラー



チーズ

# 肉用牛経営(繁殖)

全国

## 【課題】 小規模、高齢化

### 荒廃農地等への放牧で地域の里山を守る家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 妊娠牛の荒廃農地等への放牧
- 堆肥の有効活用による複合経営

子牛1頭当たりの飼料費:約3割低減  
飼養管理時間:約4割低減

【形態】家族経営2人、雇用1人

【規模】繁殖雌牛30頭、飼料作物11ha

【経営】

粗収入 2,010万円

経営費 1,210万円

所得 800万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
400万円、1,800hr



荒廃農地等への放牧

### 放牧・外部化により省力化・規模拡大を図る家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 妊娠牛の荒廃農地等への放牧
- キャトル・ブリーディング・ステーションの活用

子牛1頭当たりの飼料費:約5割低減  
飼養管理時間:約5割低減

【形態】家族経営2人

【規模】繁殖雌牛80頭、飼料作物30ha

【経営】

粗収入 3,310万円

経営費 2,260万円

所得 1,050万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
540万円、1,800hr



キャトル・ブリーディング・ステーション

### ICT・ロボット等により効率化を図る大規模法人経営

#### 【新たな取組と効果】

- 発情発見装置や分娩監視装置等の活用
- 哺乳ロボットの導入と子牛の早期離乳
- コントラクターの活用と国産飼料の生産・利用

子牛1頭当たりの飼料費:約3割低減  
飼養管理時間:約5割低減

【形態】法人経営3人、雇用2人+コントラクター

【規模】繁殖雌牛200頭、飼料作物16ha

【経営】

粗収入 8,270万円

経営費 5,740万円

所得 2,540万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
850万円、1,800hr



発情発見装置

哺乳ロボット

# 肉用牛経営(肥育・一貫)

全国(交雑種・乳用種一貫経営は主に北海道)

## 【課題】 飼料費、もと畜費等の増加

### 飼料用米の活用等に取り組む大規模肥育家族経営

#### 【新たな取組と効果】

- 増体能力の優れたもと畜の導入
- 快適な飼養環境の確保
- コントラクターの活用と飼料用米等国産飼料の利用

肥育牛1頭当たりの飼料費:約1割低減  
飼養管理時間:約2割低減

【形態】家族経営2人、雇用1人+コントラクター  
【規模】肥育牛200頭(肉専用種)、飼料作物7ha  
【経営】

粗収入 1億2,660万円  
経営費 1億1,620万円  
所得 1,040万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
520万円、1,800hr



快適な飼養環境



飼料用米、稲WCS

### エコフィード<sup>®</sup>の活用等に取り組む繁殖・肥育一貫の大規模法人経営

#### 【新たな取組と効果】

- 繁殖部門から肥育部門まで一貫化
- 肥育牛へのエコフィード等を利用したTMR給与
- ブランド化により、販売力を強化

肥育牛1頭あたりの飼料費:約3割低減  
飼養管理時間:約2割低減

【形態】法人経営4人、雇用8人  
【規模】繁殖雌牛300頭、肥育牛500頭(肉専用種)他  
飼料作物44ha

【経営】  
粗収入 2億9,090万円  
経営費 2億4,120万円  
所得 4,970万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
1,240万円、1,800hr



エコフィード(豆腐粕)

### 出荷月齢の早期化等を図る交雑種・乳用種法人経営

#### 【新たな取組と効果】

- 乳用種肥育経営へ交雑種も導入し、多角化
- コントラクターの活用と国産飼料の生産・利用
- 特色ある牛肉生産により、販売力を強化

肥育牛1頭当たりの飼料費:約1~2割低減  
飼養管理時間:約2割低減

【形態】法人経営4人、雇用3人+コントラクター  
【規模】肥育牛1,000頭(交雑種600頭、乳用種400頭)他  
飼料作物76ha

【経営】  
粗収入 4億1,400万円  
経営費 3億8,150万円  
所得 3,250万円

(主たる従事者1人当たり所得、労働時間)  
810万円、1,800hr



乳用雄牛、交雑種



特色ある牛肉(赤身肉)

# 【参考】現状の平均的な主業農家等の姿

## 酪農経営

### 北海道家族経営

(平均的な主業農家の姿)

#### 【形態】

家族経営 3人

#### 【規模】

経産牛 66頭

飼料作物 55ha

### 北海道法人経営

(平均的な法人経営の姿)

#### 【形態】

法人経営 4人

常勤雇用 4人

臨時雇用 5人

#### 【規模】

経産牛 294頭

飼料作物 167ha

### 都府県家族経営

(平均的な主業農家の姿)

#### 【形態】

家族経営 2人

臨時雇用 1人

#### 【規模】

経産牛 38頭

飼料作物 8ha

### 都府県法人経営

(平均的な法人経営の姿)

#### 【形態】

法人経営 2人

常勤雇用 4人

臨時雇用 2人

#### 【規模】

経産牛 106頭

飼料作物 9ha

## 肉用牛経営

### 肉専用種繁殖経営

(平均的な主業農家の姿)

#### 【形態】

家族経営 2人

#### 【規模】

繁殖雌牛 24頭(肉専用種)

飼料作物 5ha

### 肉専用種肥育経営

(平均的な主業農家の姿)

#### 【形態】

家族経営 2人

#### 【規模】

肥育牛 95頭(肉専用種)

飼料作物 4ha

### 乳用種育成・肥育一貫経営

(平均的な法人経営の姿)

#### 【形態】

法人経営 2人

常勤雇用 1人

臨時雇用 2人

#### 【規模】

肥育牛 400頭(乳用種)他

飼料作物 20ha

「営農類型別経営統計」等から推計